

仏教の古い言葉に「鬼手仏心」というものがある。つまり、やっていることは凄惨だが、心に仏、平たく言えば衆生に思いやりがあるということ。

今、新型コロナに翻弄される日本に必要なのは、この「鬼手仏心」なのではないだろうか。これを実行できる人が真のリーダーシップをもっている人。

(1) コロナ感染状況を冷静かつ正確な情報の提供、(2) これまでの判断に誤りがあれば誤りを認め、(3) 改善そして一日も早い対策を促し、(4) 制度に問題があれば制度の改善を求め、(5) 力不足であれば退出、再度入選を決意実行する、(6) 「鬼手仏心」を実行できるリーダーを選出する。

この熟語は私が座右の銘としている。その意味は文字通り「鬼の手に仏の心」。メスの動きは絶対に躊躇してはならない。一気呵成に切っていく。そのとき外科医の手はまさに鬼である。変な迷いがあると手術はうまくいかない。私は「この手術では私が世界一の名医だ。患者さんは私に執刀してもらって幸せである」と思い込むことにしている。不思議と手に鬼が取り付いたように勝手に動き出す。手術の上手な外科医の手を見ていると本当にそう思う。切るべきところ、切ってはいけないところは手に取り付いた鬼が判断する。手に仏がついてはならない。冷静なる心の中の仏が手に取り付いた鬼をコントロールする。思い切りは必要だし、思いやりも必要。これは医師だけに限らない話で、バランスが大事なのだろう。

今回は低侵襲手術にフォーカスが当てられた。低侵襲手術とは切開創が小さいこと、アプローチに起因する筋や靭帯・関節などへの障害が極力少ないこと、出血量が少ないこと、手術時間が短いこと、術後の疼痛が少ないことなどで代表されることが多い。確かに腰部脊柱管狭窄症に対しての除圧手術には、局所麻酔でできる手術から小さな皮切で日帰り手術まで可能となってきた。これは光学デバイスの進歩とそれを扱う医師の研鑽が可能としたに違いない。しかし、このような新規デバイスを用いたいわゆる低侵襲手術を行っても、合併症を生じたり、その手術の目的（十分な除圧）が達成できないと、すなわち高侵襲の手術となる。花北先生の書かれた項に、このような言葉があった。「私は低侵襲手術という言葉は好みませんし、患者に対する説明の際にもこの言葉を使用しません。『安全な手術を心がけます』と話します。神経脱落症状なく終了した時点で、患者がいろいろな面で満足すればそれでよしと考えています」。この言葉を目にして、共感しました。

われわれ外科医は鬼手仏心をもち、真の意味での低侵襲を目指すべきだと。
(松山幸弘)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

山崎正志（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 谷 論 筑田博隆
永島英樹 中村雅也 根尾昌志
原 政人 飛驒一利 松山幸弘

Vol. 34 No. 2
(2021 年 2 月 25 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価（本体 2,500 円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料 33,300 円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複製・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2021.

Printed in Japan

【COPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。